

東光寺だより

新型コロナ禍の中で

新型コロナ感染の拡大はまだ収束する気配もありません。皆様いかがお過ごしでしょうか。地域の行事も寺の行事も中止または縮小の憂き目に遭っています。一刻も早く以前の当たり前の生活に戻れる日を祈念いたします。

さて、こうしたコロナ禍のなかでも目を見開いてみますといろいろな気付きがあります。「不要不急」とか「自粛」という言葉も自分の行動をよく考えてみる機会を与えてくれました。コロナのお陰でと言ったら語弊がありますが、八十路半ばを迎えた老僧には「自粛」に中身を濃くすることを考えさせてくれました。「自粛させられる」というのと、「自粛する」と考えるのとは大違いで、「我慢させられる」というとすぐ愚痴がでますが「我慢する」と考えれば長続きします。

私の自粛生活は今充実しています。なるべく山門から外へ出ないように、本堂と境内を遊び場（笑）にしています。その一つに平成の最後の年に心経写経六百巻を完成しましたので、今回はコロナ収束を祈念して心経四百巻を目指しています。

今回は一枚ずつではなく巻物にしようと長巻きの障子紙を用意し朝課の後、時間があれば机に向かっていきます。



あらためて写経の良さを感じています。運動不足は境内の作務で充分補えます。わざわざ散歩に出かけなくても芽生えてきた草花と会話を楽しんでいます。齢を重ねてようやく自分の心の中にあるものに色々「気付く」ことが出来るようになったと思います。



本堂の裏に今年もささ百合が咲きました



裏の放生池にカルガモが住みつきました



薔薇もきれいです



今年の秋の紅葉は期待できます

令和三年六月 文責 東光寺 住職 鷺見邦隆